

1月12日

地域住民のために中学生が大活躍

イベント



衣川スノーバスターズの一斉活動が行われました。衣川中学校の生徒22人を含む民生児童委員などの隊員44人が参加。1人暮らしの高齢者宅で固くなった雪を砕いて運び出しました。2年の千葉吏琥君(13)は「雪が固いと地域の人も大変だと思うので、役に立ててうれしい」と満足した表情を見せました。

1月12日

伝統芸能、堂々披露

イベント



奥州子ども芸術発表会(市文化遺産活用実行委員会など主催)が市文化会館で開かれ、伝統芸能の継承に取り組む約150人が出演し、練習成果を発表しました。神楽や講談などを一生懸命披露する姿に、観客から大きな拍手が。感想を尋ねられると「練習以上にうまくできた」と誇らしげに語る様子が見られました。

1月14日

地域防災に向け一致団結

市政



市消防出初式が市文化会館などで行われ、消防団員ら約1,000人が参加しました。きびきびとした分列行進に続き、12月に発足したカラーガード隊によるドリル演技や、水沢纏組と江刺纏隊による纏振りを披露。長年勤続した団員らへの表彰なども行われ、参加者は安心安全なまちづくりへの決意を新たにしました。

1月22日

佐藤アヤ子さん100歳(水沢羽田町)

高寿



水沢寺小路に生まれ、20歳で故・秋雄さんと結婚。夫と2人で羽田町に鋳物屋を開業しました。3男2女をもうけ、孫9人、ひ孫15人に恵まれています。よくかんで食べることが長寿の秘訣。大勢の親族でお祝い会が開かれ、アヤ子さんは「センキューベリーマッチ」と笑顔で祝福に答えていました。

1月24日

郷土作家をしのぶ

イベント



大型紙芝居を創る会主催の「森田純を語る会」が前沢ふれあいセンターで行われました。前沢出身の児童文学作家で版画家の森田さんの原作をもとに、同会が制作した大型紙芝居「鬼の面こ」を披露。集まったファンらに、森田さんの幼なじみや妻の瑠子さんなどが生前のエピソードを紹介しました。

このイベントは市民提案型協働支援事業補助金を活用して開催されています

1月24日

栽培日本一のハスカップで姉妹都市を味わう

市政



「姉妹都市を味わう日」として、小中学校の給食に北海道厚真町の特産品ハスカップを使用したメニューが登場しました。姉妹都市とのつながりや歴史を知ってもらおうと市姉妹都市交流実行委員会が主催。若柳小学校ではハスカップケーキが提供され、ビタミンCなどを豊富に含んだ甘酸っぱい味を楽しみました。

ゲストランナー 柏原 竜二 さん

全国ランニング大会100撰

2019 スポニチ いわて奥州きらめきマラソン

ランナーのエントリーは2月20日(水)まで

まだ全種目で大会ランナーのエントリーを受け付けています。締め切りまであとわずか、申し込みをお忘れなく! 参加賞に加え、抽選による特典なども用意して、皆さんの参加をお待ちしています。

■問い合わせ=いわて奥州きらめきマラソン実行委員会事務局(江刺総合支所・内線2196、2197)

■申し込み方法

大会ホームページから【申込期限: 2月20日(日)】

○RUNNETへの会員登録(無料)が必要です

○参加料のほかに、エントリー手数料が必要です

郵便局から【申込期限: 2月20日(日)(消印有効)】

○大会パンフレットに添付の専用振替用紙に参加料を添えて、郵便局またはゆうちょ銀行でお申し込みください。パンフレットの請求は実行委員会事務局まで

○参加料のほかに、振込手数料が必要です

■大会参加賞 フルマラソン「ミズノ製オリジナルTシャツ」、10キロ「オリジナルスポーツタオル」、2キロ「オリジナルタオル」、全参加者「振る舞い汁の

提供)「ゼッケン提示で日帰り入浴施設割引」

■完走賞(親子ペア)「りんごジュース」「お菓子のつかみ取り」

■抽選による特典 フルマラソン「しまだ大井川マラソン in リバティ(静岡県)、東北・みやぎ復興マラソン(宮城県)へ各2人派遣 ※希望者から抽選。東北・みやぎ復興マラソンは市民のみ対象」、全参加者「前沢牛」

■上位入賞者への特典 フルマラソン年代別男女1位から3位、10キロ・2キロ年代別男女1位の人に「大会特製・南部鉄器メダル」を授与



いわて奥州きらめきマラソン第3回大会は5月19日(日)開催です



最新情報はこちらから ⇒ 大会HPアドレス <http://oshukirameki.jp>

きらめきマラソン

検索

地域おこし協力隊に新隊員が着任しました

◎問い合わせ 本庁元気戦略室(内線1462)

1月1日に高橋史江さん、2月1日に佐藤幸治さんが地域おこし協力隊(食の黄金文化・奥州 輝かせ隊)に着任しました。2人は水沢姉妹町の「まるっこ奥州」を拠点に、市の「食」「農」に関する情報発信などを行います。市の協力隊は、2人が加わり6人になりました。それぞれの分野での活躍が期待されます。



高橋 史江(たかはし ふみえ)

◎昭和53年、金ヶ崎町生まれ。都留文科大学文学部英文科卒業。東京都から転入。「奥州市が少しでも住みやすく、活性化のお手伝いできればと考えています。奥州市は高校に通っていたので、なじみのあったまちでもあります。県外での生活で得た外部からの目と、故郷としての内部の目を両方持って、国内外問わず市の魅力をより多く発信していきたいです」



佐藤 幸治(さとう こうじ)

◎昭和60年、江刺玉里生まれ。日本福祉大学経済学部経済学科卒業。愛知県から転入。「10年以上、製パンメーカーに勤め、ベーカリーの店長として働いてきました。今までに培った販売力と衛生知識などを生かしながら、奥州市で作られる農畜産物や加工品のブランド力、希少性、可能性などを探りたいと思っています。さらには地域のニーズに合った加工場が造れないか模索していきたいです」